



尊敬する 上司を真似て 夢を実現しよう!

坂田建設(株)土木工事部工事部長 鈴木 正司



尊敬する上司はいますか?

あなたには、「尊敬する上司」がいますか？ あの人のようになりたいと思う上司がいますか？ 多分、尊敬できる上司は、あなたのすぐく身近にいて、いつも影響を受けている人だと思います。また、あの人のようになりたいと思う上司は、配属されている現場の所長や主任さんではないかと思います。今の現場の中にいないとしても、過去に一緒であった現場の中に、そんな上司が1人や2人くらいは誰でも心の中にいると思います。

具体的に言うと、その工種に経験が有ろうと無からうと利益を確実に上げることができる上司、どんな発注者の仕事でも必ず高い工事評価点をもたらす上司、どんな担当者でも必ず仲良くなって友達みたいな人間関係を築くことができる上司、難しい設計変更でも簡単に変更してしまう交渉の上手い上司、トラブルの時少しも動じずタフでへこたれない上司、誰も発想しないようなアイデアを出して簡単に問題を解決してしまう上司、会社や協力業者を味方にして周りを巻き込んで上手く人を使う上司、挨拶をさせたらいつも話がおもしろく人を惹きつけることが上手い上司、人間味がありいつも自分を心配してくれてこの人のためならと働きたくなるようなリーダーシップのある上司などでしょうか。

「いるいるそんな上司!」と思い当たる人がいるはずです。その人は、一人ではなく複数の人たちではな

いでしょうか？ もし仮に、「それぞれの上司の能力を自分が持てたら」と思ったことはありませんか？ 「自分がそんなスーパーマンだったら」会社に大いに貢献して将来が楽しみになるなどと思いませんか？



尊敬する上司を真似しよう

新入社員から現場代理人として一人前になるには、10年から15年はかかると思います。工期が1年ある現場に配属されたとすると、現場代理人になるまでに10~15人の上司と出会える計算になります。その中に皆さんの理想の上司が必ずいるはずですよ。人は身近にいる人から常に刺激を受けます。その刺激が自己を高めるために重要なファクターとなります。たとえば、上司の話し方や行動を知らず知らずのうちに観察していて、自分が同じような場面でその上司と同じ話し方をしていたり、同じような行動をしていた時にハッとしたことが誰でもあるはずですよ。それは真似をしているのではなく、素直に自分の心が感動したことによって、自然と心の中にインプットされ、同じような場面でその上司の行動と同じことをする「自然獲得行動」を行なっているからです。

しかし、観察だけで自然に獲得できる行動はそれほど多くありません。また、尊敬している上司との間で、一つでも「自分と意見が違う」とか「自分と考え方が違う」とかいう場面があると、心はその上司を観察しなくなります。すると心の欲求は、人生





尊敬する上司を真似て夢を実現しよう!



鈴木正司 氏

論・ビジネス書・行動改善書などに向かいます。これは、「立派になりたい」とか「偉くなりたい」という行動からくる心の働きであります。しかし、自分自身を自ら見つめ直してみれば、常に清く・正しく・冷静に行動をしているわけではありません。いろいろな心理状態や考え方で行動しているので、些細なことで観察をやめてしまうことは残念です。

では、一緒に仕事をしたことがない上司についてはどうでしょうか？ 普通は人づてに聞いた人物評価で、その上司に対して自分でイメージを作り上げています。多分、悪い評価ほど入りやすく信じやすいものなので悪くもありますが、それ以外を見るとすれば、それぞれの会社には人物の武勇伝があり教訓として伝わっていませんか？ その武勇伝の主は部長であったり役員であったりと、一緒に仕事をできる立場にはいないので直接観察することができません。しかして、それらの武勇伝には、**who** (誰が)、**what** (何を)、**when** (いつ)、**where** (どこで)、**why** (どんな目的で)、**how** (どのように)、**how much** (いくら) という5W2Hが必ずあります。これほど簡単に明確に示された行動教育資料は他にはありません。武勇伝がたくさんあればあるほど会社の宝であり、その教訓が会社の行動規範となっているはずで、組織の中ではそれらの伝説が、時代を飛び越えてストレートに若い人たちの心の中に入りますので、触発される若い人たちもたくさん出てきます。つまり、会社にある武勇伝こそが、自然と上司を真似できるテクニックの財産であると思っています。

上司の良いところを観察する自然で素直な心と、

武勇伝という会社の知恵を借りて上司の真似をすることが、自己啓発をするきっかけとなり自らのレベルアップをする手段となると考えています。



尊敬する上司も自己を向上させる努力をしている

尊敬する上司でも、非の打ちどころのない完成された人間ではありませんし、すべてに長けている上司となると居ないというのが本当でしょう。人は誰でも、幾つになっても、自己を高めたいと考えるものです。尊敬する上司も自己を磨くために努力しているのです。もし、尊敬する上司が資格取得を目標に掲げ、頑張っている姿を目の当たりにしたならば、少なからず影響を受けるものです。そんな上司と積極的に会話をすると、「自分は、まだまだ努力が足りないな」と思わせてくれる刺激を与えてくれます。話をすることが自分自身の力量を向上させる動機付けになっていきます。そのような意味でも、尊敬する上司を持ち、行動を真似て、自分はその上司より一つ上を行くぞと思うことが、自己の向上であり、努力を試みようとする目標となると考えます。



夢は必ず実現する

「あなたには、夢がありますか?」「夢を実現させるための行動をしていますか?」と聞かれたら、どう答えるかを考えてください。私事になりますが、経験を少し書かせていただきます。私が坂田建設株式会社に入社して、初めて配属された現場は、宮城県と岩手県にまたがる高速道路の建設現場でした。そこで、尊敬する上司とめぐり合いました。その上司は30歳でしたが、「10年後に技術士を取る」と輝く目で話をしてくれました。学生時代には技術士という資格があることは知っていましたが、手が届かないものと勝手に決め付けて、取得できたらいいかなくらいにしか考えていませんでした。自分の心の中で「手に届かない資格だな」と思い込み、積極的に考えることが無かったものですから、その上司の



具体的な取得計画を聞き感動してしまい、「その計画を自分も実践してみよう」とあっという間に感化されてしまいました。技術士を取得する年齢について、尊敬する上司が40歳を目標にしていたので、自分は35歳で取得するぞと密かに心の中で挑戦しようと思いました。新入社員として最初に配属された現場で尊敬する上司を得られたことは、幸運であったと思っています。

そこで、私は夢を心の中で思うだけでなく、口に出してみました。同僚と酒を酌み交わす時に、「俺は35歳で技術士を取るぞ」と宣言してみたのです。すると、漠然としていた自分の中の想いが、徐々に変化して「本当に自分は技術士を取るぞ」と自覚するようになりました。自覚ができたものですから、35歳までに取るために、どのような行動をするか計画をしました。その行動計画は、当時上司が熱く話してくれたやるべきことを残りの年月で割り振りながら決めただけなのですが、上司と話したことが大いに役に立ちました。計画の実践は遅れ気味でありましたが、着実に努力をした結果、35歳より3年遅れましたが技術士を取得することができました。

技術士を取得すると今までの苦しさは何処かへ行ってしまう、次なる夢を追いかけることになります。その後の夢とは、日建経の中央技術研究所で河野彰先生の、工学博士を取る方法という話をお聞きした時です。その時、私の体に電気が走り、自分もやるぞと闘志を掻き立てられました。当時、我が社の社長と話す機会があり、脈絡もなく工学博士を取りたいと希望したところ、「我が社には工学博士はいらん」とけんもほろろに一喝されました。しかし、他社の工学博士取得状況や技術のレベルアップを図る計画から、社内にも工学博士を誕生させようという機運が盛り上がり、社長から取得許可が出ました。社長に工学博士を取りたいと話をしていなければ、人選されていなかったかもしれません。

私は、こう考えます。「工学博士を取得したい」と口に出して夢を語ったことが、自分の心と話をした相手の心で「目標が変わった」と。

それから、京都大学大学院の入試勉強が始まりま

表 夢を実現させる方法

- ① 夢を持つこと
⇒一つではなく数多く持つことが自己啓発をするために必要。
- ② 口に出して人に語る
⇒人に語ることで自分をその気にさせる有言実行の実践。
- ③ 取得計画を立案する
⇒無理のない計画を立てることが実現の一步。
- ④ 計画を実践する
⇒強い意志力の鍛錬。
- ⑤ 実践の継続が現実する
⇒自分だけにしか分からない人生の満足感を享受。
- ⑥ また、新しい夢を見つけて、人に話をする
⇒レベルアップを図るために。

した。微分積分から始まり応用力学の本を約2ヶ月間必死で勉強し直しました。その甲斐あってか、入学することができ、3年のところ倍の6年かかりましたが、昨年、京都大学から博士（工学）の学位を頂くことができました。このように、夢は必ず実現できるのです。夢を実現する手順は、決して難しいものではありません。その手順は表の通りと考えています。

自己啓発は、身近な上司と話をすることから始まります。そして、尊敬できる上司との邂逅は、自己を研鑽する動機付けになります。自分を高めてくれるのは、身近な人たちであり、自己を高めようとする気持ちです。自分を向上させてくれる上司を見つけ、将来を語る機会を持つことは、人生の財産となると思います。

昨今の、建設業に厳しい時代を乗り切るためには、自分を高める夢を持つことが大切であり、その実現のための努力が必要な時代であると思います。私の次の夢は、熱電変換技術を建設分野に取り込み、環境にやさしい建設技術の開発をすることです。このように次の夢を皆さんにお話することで、自身の夢を実現しようとする動機付けとしたいと考えております。是非、皆さんも大いに夢を語っていただきたいと思います。